

ちゅうしゅうむげつはは
中秋無月母に侍す（頼山陽）

この夜を 同じうせざる 十三回

かねて 得たり 秋風 一扨を 奉ずるを

恨みず 尊前 月色 無きを

みるを 免る 兒子 鬢辺の 糸

不同此夜十三回 重得秋風奉一扨
不恨尊前無月色 免看兒子鬢邊絲

解説 仲秋の名月の夜に母と一献を傾けたときを詠ったもの。

語釈 ※中秋無月Ⅱ陰曆八月十五夜に月がない。

※此夜Ⅱ中秋の夜をいう。※一扨Ⅱ扨はさかすき。※尊前Ⅱ母
上の前。※鬢辺糸Ⅱビンのあたりの白髪。

通釈 母と仲秋の名月の宴を共にしないで十三年もの長きに及
んでしまった。さて、今夕は秋風が吹き始めたので、母を迎え
て盃を献ずる事が出来た。しかし、今夕は仲秋の名月を見るこ
とが出来ないが、それはかえって幸いな事で、母に自分の白髪
を明らさまにせず済んだことだ。